

AP-5176

米價問題
卜鈴木商店



何
日

P611
S.32
/

P611-43
S.32
/

P611.43
S 32
/

AP-5176

緒言

最近數年米價ハ異常ノ低落ヨリ異常ノ騰貴ニ急轉シ爲ニ
 ハ農民ノ生存ヲ脅威シ後ニハ國民一般ノ食料問題ヲ沸騰セシ
 メ政府及ビ憂國ノ士ヲシテ毎ニ之ガ調節ニ苦心セシメタリ此
 ノ時ニ當リ平素米穀需給ノ業ニ從ヘル者國家社會ノ爲ニ自己
 ノ利益ヲ犧牲トシテモ進ンデ最善ノ努力ヲ爲シ調節ノ目的ニ
 貢獻スル所ヲタシテハアルベカラズ乃チ我が鈴木商店ハ米穀有
 リ餘リテ價格異常ノ低落ヲ來セシ際ニハ進ンデ之ヲ海外ニ輸
 出シ内地産米不足シテ價格異常ノ騰貴ヲ爲セル際ニハ外米及
 ビ鮮米ヲ輸入シ以テ國家ノ急要ヲ充タシ國民ノ困窮ヲ輕減
 スルニ努メタリ是誠ニ以テ衷心欣快トスル所ナルモ敢テ自カ
 ラ其ノ功ヲ誇ルベキニアラズ蓋シ鈴木商店ノ爲セル所ハ政府



C 3d 340

ノ政策ニ順應シ或ハ其ノ命令ニ從ヒ進退セシニ外ナラザレバ
ナリ然ルニ世間之ヲ誤解シ曲解スルモノアリテ甚ダシキハ當
店ノ行爲ヲ譏誣シ事情ニ迂遠ナル者ヲシテ怨ヲ當店ニ懷カシ
ムルニ至レルアリ八月十二日夜ノ變災ハ此等惡意アル曲解者
ガ無辜ノ良民ヲ煽動シテ敢テ不善ヲ働カシメ憐ムベキ地位ニ
陷レタルモノト云フヲ得ベシ今ヤ民心冷靜ニ復シ吾人ノ云ハ
ント欲スル所漸ク其耳ニ入り易カラントス茲ニ米價調節問題
ト鈴木商店トノ關係如何ナリシヤヲ事實ニ徴シテ闡明セント
欲ス之ニ依テ其ノ真相ヲ知ルニ至ラバ曩時ノ誤解者モ釋然ト
シテ氷解スルヲ得ン

第一章 日本米輸出ノ顛末

(一) 大隈内閣時代調節米買上ゲ

明治四十三年一月正米(中米)拾壹圓五拾錢ヨリ大正元年十二月
貳拾八圓八拾錢ノ稀有ノ高値ヲ現シタル迄米價ハ漸騰ヲ續ケ
タルニヨリ一般ニ喰延シノタメ消費量漸減シタル事、大正二年
定期ニ臺灣米ノ代用ヲ許シタル事、大正三年實收高五千七百萬
石ノ豐作ヲ得タル事、等ノ諸因ニ加フルニ歐洲大亂勃發後一時
經濟界ノ不振アリ彼是相待チテ米價ハ漸落底止スル所ヲ知ラ
ズ大正三年十二月ニハ遂ニ拾貳圓迄低落シタルヲ以テ時ノ大
隈内閣ハ米穀買上ゲヲ以テ米價ヲ調節シ農民ノ窮乏ヲ救ハン
トシ各地ニ於テ實米ヲ買上ゲタルガ定メシ其ノ結果ナルベシ
大正五年一月ニハ拾四圓六拾錢迄引戻シタルモ大正四年五千

五百九十萬石ヲ産シ供給再ビ潤澤トナリ政府買上策ハ以テ大勢ヲ左右スルニ由ナク大正五年六月ニハ拾參圓ニ低下シ尙低落ノ趨勢ハ大河ノ決潰スルガ如ク彌縫ノ策ヲ以テ阻止スル事能ハザルヲ見ルヤ時ノ政府ハ我鈴木商店ニ望ムニ内地米ノ海外輸出ヲ以テセルト同時ニ一般社會ガ米市場ニ對スル要求ハ海外輸出ニヨリ米價ヲ引上げ以テ農民ヲ救濟セントスルニアリタリ

(二) 調節米輸出

茲ニ於テカ我商店ハ政府ノ米價調節ノ主旨ヲ體シ社會ノ要求ニ聽キ曩ニ政府ノ買上ゲタル米ノ内大正五年六月大阪竝ニ兵庫ニ於ケル在米四萬六千三十石ヲ建値拾壹圓八拾錢ニテ引受ケタルヲ始メトシ大正六年五月十一萬俵ヲ建値拾五圓拾壹錢ニテ政府ヨリ買受ケシヲ終リトシ其間政府ノ主旨ヲ體シ順次

中國九州地方ニテ玄米ヲ買集メ岡山精米所大里精米所ニ於テ七十一萬俵ヲ精白シ主トシテ英國佛國竝ニ革命前ノ露國政府ニ供給シタル外玄米ノ儘馬耳塞桑港等へ輸出シタルモノ約十五萬俵ニ及ベリ

斯ノ如ク日本米輸出ノタメ盡瘁シタルハ決シテ區々タル利己心ノ爲ニ非ズ時ノ政府ノ主旨ヲ體シ米價調節ニ資セントスル精神ニ他ナラザリシナリ何トナレバ元來米ノ輸出ノ如キハ比較的薄利ノ商賣ニシテ船腹ノ缺乏セル戰時ニアリテ同一ノ船腹ヲ利用スレバ他ニ有利ナル輸出商品多クアルニ拘ラズ敢テ米ノ輸出ニ盡力シタルモノ豈自己ノ利益ヲノミ慮カル者ノ能クスル所ナランヤ

茲ニ於テ其際政府ヨリ我商店ニ賣下ゲラレタル調節米契約ノ内容ヲ開示セバ當時ノ状態ヲ最モ雄辨ニ説明シ得ルナラント

信ズルニ依リ左ニ其大要ヲ摘記シ參考ニ供ス
 米賣渡契約書第五條
 買受人ハ買受米全部ヲ其儘又ハ精白ノ上大正六年六月三十日迄ニ外國ニ輸出シ其旨届出ヅベシ
 交換其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ内地市場ニ出スコトヲ得ス
 但シ契約擔任者ニ於テ臺付其他ノ事由ニ依リ品傷ミノ爲メ輸出ニ適セズト認メタルモノニ就テハ買受人ニ於テ便宜市場ニ於テ交換ノ上輸出スルモ妨ゲナシ
 前項ノ期間内ニ輸出シタルトキハ百八十日以内ニ帝國領事ノ輸出證明書又ハ契約擔任者ニ於テ適當ト認ムル證明書ヲ提出スベシ
 買受人前二項ノ規定ニ違背シタルトキハ違約金トシテ内地市

場ニ出シタル石數又ハ輸出未滿ノ石數若クハ輸入證明書提出未滿ノ石數ニ對シ一石ニ付金五圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ指定ノ期間内ニ金庫ニ納付スベシ但シ一石未滿ハ一石ニ切上ゲ計算スルモノトス(以下略ス)

(三) 桑港立米輸出ニ件ヒタル風説

然ルニ大正六年五月ノ事ナリキ某紙ハ鈴木商店ガ獨逸へ日本米ノ輸出ヲナシツ、アリト讒誣セリ斯カル事ノ不可能ナルハ少シク當時ノ貿易状態ヲ知ル者ノ能ク察スル所ナレドモ江湖ノ誤解ヲ正サンタメ左ニ當時ノ事情ヲ記述スベシ
 同年四月二十五日頃ノ事ナリキ桑港ハイन्द、ロルフ商會ヨリ當時上海渡ニテ諾威船ボーランド號ヲ買取り米國へ廻船スルニ付其途日本米二千五百噸積取りタシ同船ハ五月七日頃門司へ到着スベシトテ商談申込アリタリ斯ノ如キ短時日ニ立米ニ

千餘噸ヲ買集メ輸出向ニ適スル様精選シ荷造ヲ改造スルガ如キハ實際ニ通ズル者ノ皆能ク其ノ不可能ニ近キヲ知ル所ナルベシ然レドモ敏活迅速ヲ旨トセル我鈴木商店ハ進ンデ右ノ商談ニ應ジ二十八日契約ヲ締結シ爾來日夜人ヲ防長地方ニ派シ稍高價ナル代價ヲ支拂ヒテ廻米ヲ迅速ナラシメ玄米精選荷造ノタメ倍額ノ賃銀ヲ支拂ヒテ人夫ヲ吸收シ舩舟ヲ寄セ集メタリ是レ固ヨリ已ムヲ得ザル處置ナルモ之ガ爲ニ他商店ガ人夫舩ヲ奪ハレ迷惑ヲ感ジタル向モアリタルニヤ斯ル高價ノ賃銀ヲ支拂ヒテ尙且利益ヲ得ル如キハ普通ノ商賣ニハ非ザルベシトノ臆測ト恰カモ船ハ諾威國籍ナリシヲ以テ某紙ハ爲ニスル者ノ反間策ニ乗ゼラレズル不祥ナル流言ヲ傳布セシナルベシ然レドモ當店ハ契約ノ當初ヨリ買手タル桑港ノ「**ハイन्द、ロルフ**」商會ノ身元ニ就キテハ篤ト調査シアリ組合員ノ一人「**ロルフ**」

六

氏ハ桑港市長ニシテ「**ハイन्द**」氏亦名望高キ資産家ナリ敵國ト商關係アリヤ否ヤハ識者ノ能ク知ル所ナリ
其後同船ハ五月十一日門司出帆無事桑港ニ着同地ニテ荷揚シ米ハ米國內地及ビ加奈陀ニ於テ消費セラレタリ

(四) 浦鹽輸出

之ヨリ以前露國帝政々府時代ノ莫斯科市購買組合へ日本米二十萬ブード西貢米三十萬ブードノ供給契約ヲ締結シ順次浦鹽へ積出シタルガ某紙ハ是モ亦獨逸ニ行クナルベシナド兒戲ニ類スル記事ヲ掲載セリ當時ノ獨逸ノ交戰狀態ヲ知ル者ハ一笑ニ附スル所ナルベシ

(五) 馬耳塞輸出

大正六年七月藻寄丸ヲ以テ佛國へ三千五百噸玄米輸出ヲナシタリ當時某紙ハ鈴木商店ハ海外輸出ニ名ヲ藉リ大規模ニ内地

七

米ノ買占ヲナシツ、アリトノ流言ヲ傳ヘ定期者流亦此浮説ヲ利用シテ買煽リノ材料トセリ然レドモ何ゾ圖ラン此マルセーユ輸出米ハ全然輸出ノ目的ヲ以テ政府ヨリ買受ケタル調節米ノ一部ニシテ一粒タリトモ一般市場ヨリ買取りタルモノ無キヲ假ニ一步ヲ譲リテ市場ヨリ多少ノ買集ヲ爲シタリトスルモ尙當時ノ市價ハ拾六七圓ニシテ米ノ海外輸出ヲ以テ一般農民ヲ救済スベク官民共ニ要求シタル時代ナリシヲ奈何セン鈴木商店ガ買占ニヨリ米價ヲ暴騰セシメタリテフ風説ハ全ク事實無根ニシテ我商店ガ米ノ海外輸出ヲナシタル頃ハ寧ろ政府ト社會ノ要求ニ應ジタルモノナル事ヲ察スルニ足ラン而シテ上記大正六年七月出帆ノ藻寄丸コソ實ニ當商店ガ米輸出ノ最終ニシテ爾來一モ米ノ輸出ヲ企テタルコトナシ亦以テ騷擾當時ノ米價騰貴ニ何等ノ關係ナキコトヲ知ルベシ

第二章 外米取扱ノ顛末

(一) 管理令施行前ノ取扱

當店ハ大正六年春以來蘭貢西貢米ヲ米國へ仲繼貿易シ來リタルガ大正六年米作第二回收穫豫想五千四百九十五萬石ト發表セラル、ヤ既ニ早ク大正七年度ニ於テ三百三四十萬石ノ供給不足アルベキヲ察知シタリ

(註) 右弊店ノナシタル豫想ノ根據左ノ如シ

大正四年ノ人口調査臺灣朝鮮ヲ除キ五千四百四十三萬九千人ニ同年六拾萬ノ人口増率ヲ加算シ大正七年ノ人口ヲ五千五百六十三萬人ト計算シ一人當リ消費高一石〇四升トセンカ大正七年ノ消費量ハ五千七百八十六萬石トナリ臺灣米ノ移入ハアレドモ好景氣ノ爲メ消費増加スベキヲ以テ結局三百三四十萬石ノ供給不足トナルノ計算ヲ立テタリ

於茲乎外國米取引ニ從事セル當店トシテ外米ノ内地輸入ヲ企ツベキハ商策トシテモ社會ニ對スル義務トシテモ極メテ緊要ナルニ鑑ミ漸次產地ニ買附ヲナシ管理令施行前ニ於テ左ノ通

リ輸入販賣セリ

一月二十日	入港	大圖丸	三萬五千袋	蘭貢米
三月六日	同	愛國丸	三萬八千袋	同
四月一日	同	大圖丸	三萬五千三百袋	同
五月二十日	同	京都丸	三萬一千九十六袋	同
五月八日	同	井出丸	五萬三千袋	同
三月二十三日	同	隆昌丸	三萬六千四百五十一袋	西貢米
五月六日	同	豐富丸	二萬八千百十六袋	同
計			二十五萬六千九百六十三袋	

(二) 管理令施行ノ取扱

勅令第九十二號ヲ以テ外米管理ノ事行ハレ

西貢米	神戸門司	倉渡百斤	七圓五拾錢
蘭貢米	同	同	七圓七拾錢

ヲ以テ指定賣渡値段ト定メラル、ヤ一般市場ノ手持者ハ大打撃ヲ蒙ル事トナリタルニツキ特ニ五月十七日ヲ限り一般市場ノ手持ヲ

西貢米	神戸門司	沖	八圓貳拾錢
蘭貢米	同	同	八圓四拾錢

ノ値段ヲ以テ指定商人ノ手ヲ經テ政府へ買上グル事ニ決定セラレ當店亦指定商人トシテ左ノ通り買上ノ手續ヲ了セリ

蘭貢白米	四千五百六十六袋
西貢白米	六萬二千七百五袋
西貢玄米	五千二百二十二袋

計 七萬二千四百九十三袋

外米管理規則第二條(本則施行前ニ輸入ノ目的ヲ以テ買入レタル外國米ニシテ其輸入者ノ所有ニ係ルモノニ付テハ其所有者

ハ本則施行後一箇月内ニ限り農商務大臣ニ對シ其買入レテ請
求スル事ヲ得但シ其買入價格ハ其外國ニ於ケル買入原價運送
賃及諸掛リヲ加ヘタル金額ヲ超ユル事ナシニヨリ當店ガ貴重
ナル船腹ヲ利用シテ買付ケタルモノヲ其利益ヲ犠牲ニ供シ原
價ニテ政府ニ提供シタルモノ左ノ如シ

蘭貢米

七月二十一日	入港	神明丸	二萬袋
七月三十一日	同	泰平丸	三萬六千二百袋
八月五日	同	大圖丸	三萬袋
九月九日	同	多摩丸	二萬六千袋
九月七日	同	大雄丸	二千袋
十月十三日	同	海福丸	二萬四千四百四十袋
西貢米			

六月二十三日 入港 隆昌丸 三萬七千七十七袋

計

十六萬五千七百十七袋

(三) 新規買入

農商務大臣ノ命令ニヨリ新規買附ヲナシタルモノハ左ノ如ク
ナルガ是亦百斤參拾錢ノ口錢ヲ以テ產地ニ買附ヲナシ積取船
ヲ廻航シ輸入シ地方實需口ニ小口ニ分チテ販賣スルノ手數ヲ
思ハ、餘リ歡迎スベキ商賣ニ非ザルモ奉公ノ一念ヲ以テ新規
輸入ニ努メタルモノナル事識者ノ認ムル所ナルベシ

蘭貢米

五月二十七日	入港	乾坤丸	二萬七百四袋
六月一日	同	大圖丸	三萬五千五百六十六袋
七月二日	同	盛福丸	三千七百三十袋
七月二十日	同	神明丸	八千五百六十四袋

八月五日	入港	大圖丸	五千四百七十袋
八月十六日	同	敦賀丸	二萬五百三十一袋
九月七日	同	大雄丸	七萬六千袋
九月三十日	同	安陽丸	二萬三千二百三十二袋
十月十三日	同	海福丸	一萬六千二百四十袋
十月二十五日	同	辨天丸	二萬八千四百袋
九月四日	同	第六霧島丸	二萬六千二百九十袋
十月六日	同	武州丸	三萬二千五百袋
九月三十日	同	泰平丸	三萬五千二百袋
九月二十二日	同	廣東丸	二萬八千袋
十月十五日	同	幸丸	二萬九千四百袋
十一月五日	同	豐岡丸	五千六百袋
十一月十日	同	彌彦丸	三萬二千袋

西貢米

六月二十一日	入港	袖ヶ浦丸	二千四百九十七袋
七月八日	同	日英丸	二萬一千八百八袋
七月十日	同	共同丸	二萬四千三百四十六袋
七月三十日	同	ハドソン丸	五萬四千四十四袋
九月二十八日	同	パネー號	三萬八百六十袋
十二月一日	同	幸丸	三萬〇九十八袋
十月十九日	同	大運丸	二萬百一十一袋
十一月一日	同	神明丸	三萬二百六十一袋
八月三十一日	同	明海丸	四千百六十七袋
九月三日	同	ボルネオ丸	二千五百十五袋
九月十九日	同	美津丸	五千五百十五袋
九月十三日	同	チエンパー號	三千九百五十八袋

九月十日 入港

扇港丸

六千八百二十六袋

計

六十六萬四千四百三十五袋

即ち管理令施行後取扱累計九十萬二千六百四十五袋ニ及ベリ
參考ノ爲農商務大臣ノ命令書竝ニ覺書ノ全文ヲ左ニ掲載シ以
テ當店ノ立場ヲ明ニセント欲ス
米第一一七號

命 令 書

神戸市東川崎町一丁目一番地

合名會社 鈴木商店

大正七年勅令第九十二號第一條ノ規定ニ據リ其ノ社ヲ指定ス
ルニ付左ノ事項ヲ命令ス

大正七年五月七日

農商務大臣 仲小路 廉

記

第一條 其ノ社ハ内地ニ輸入スル爲メニナス外國米ノ買入ニ
付キ其ノ種類、數量、品位、買入價格、輸入ノ時期、場所、船腹及保管
ノ場所ヲ豫定シ本大臣ノ承認ヲ受クベシ

第二條 本大臣外國米ノ買入又ハ賣渡ヲ命シタルトキハ正當
ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

本大臣必要アリト認ムルトキハ外國米ノ賣渡ヲ差止メ又ハ
之ヲ制限スルコトアルベシ

第三條 外國米ノ内地ニ於テ引渡ヲ爲ス賣渡ニ付テハ左ノ規
定ニ從フベシ

- 一、賣渡代價ハ本大臣ノ指定シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス
- 二、一口千袋未滿ノ買受申込ヲ取扱ハサルコトヲ得但シ公共
團體、商業會議所、農會、產業組合、漁業組合、慈善團體及特ニ臨

時外米管理部長ノ承認ヲ得タル者ノ申込ニシテ一口八十袋(八噸貨車ノ一車)以上ノモノニ付テハ便宜之ヲ取計フベシ

三、本船入港後ニ非サレハ賣渡ヲ爲スコトヲ得ス

前項以外ノ賣渡ニ付テハ豫メ本大臣ノ承認ヲ受クヘシ

其ノ社ハ資力信用ノ薄弱ナル者ニ對シ賣渡ヲ拒ムコトヲ得

第四條 其社ハ轉賣ニ依リテ不當ノ利益ヲ得ントスルモノト

認ムル場合ニハ其ノ賣渡ヲ拒ムコトニ注意スヘシ

本大臣ハ其社カ賣渡ヲナス場合ニ付キ其ノ買受人トノ契約

ニ關シ一定ノ條件ヲ附スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 本大臣ハ第三條第一項ノ指定賣渡代價ト買入代價、運

送賃、關稅、保險料、倉庫料、荷造費、陸揚費、出庫費、通關手数料、改買

費、金利其ノ他ノ諸掛ノ總額トノ差額ヲ補給スヘシ此ノ場合

ニ於テハ一定ノ手数料ヲ附加スヘシ

第三條第二項ノ賣渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ニ準シテ

補給金ノ計算ヲ爲スモノトス但シ其ノ手数料ニ付テハ本大

臣ノ指定スル所ニ依ル

第一項ノ買入代價其ノ他ノ費用カ時價ニ比シ適當ナルトキ

ハ相當ノ減額ヲ爲シテ第一項ノ計算ヲ爲スヘシ

補給金ノ計算及支拂並第一項及第二項ノ計算上其ノ社ニ利

益ヲ生シタル場合(手数料ヲ除ク)ノ手数料トノ差引ニ關スル

細目ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第六條 本命令ニ從ヒ賣渡ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルト

キハ本大臣ハ其ノ外國米ニ對シ第五條ノ總額(但シ其ノ手數

料ニ付テハ本大臣ノ指定スル所ニ依ル)ト市價トノ差額ヲ補

給スヘシ

第七條 本命令ニ依ル補給金ニ關シテハ政府ハ利息ヲ支拂フコトナシ

第八條 本命令ニ依リ買入レタル外國米ノ毎月十五日及月末

ノ現在ニ付キ左ノ事項ヲ臨時外米管理部長ニ報告スヘシ

一、内地ニ於ケルモノ、種類、數量及保管ノ場所

二、運送中ニ屬スルモノ、種類及數量

三、産地ニ於テ買入レタルモノ、種類及數量

四、賣渡ヲ爲シタルモノ、種類及數量

第九條 其ノ社カ本命令ニ依リ外國米ノ買入及其ノ積出ヲ爲シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク之ヲ臨時外米管理部長ニ報告スヘシ

第十條 其ノ社ハ將來外國ニ輸送スル目的ヲ以テ新ニ買入ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク買入年月日、買入地、種類、數量、價格及

仕向地ヲ臨時外米管理部長ニ報告スヘシ

第十一條 其ノ社ハ本大臣ノ承認ヲ受ケタル一定ノ帳簿ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿及外國米ノ買入、賣渡、保管等ニ關スル信書其ノ他ノ書類ハ之ヲ保存スヘシ

本大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命シ又ハ官吏ヲシテ實地調査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十二條 本大臣ハ前各條ノ外外國米ノ買入、輸入、移入、賣渡、保管等ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ承認シタル事項ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 其ノ社本命令其ノ他ニ基ク義務又ハ關係法令ニ違反シタルトキハ本大臣ノ指定ヲ取消シ又ハ補給金額ノ交付ヲ爲サス若クハ之ヲ減額スルコトアルヘシ

第十四條 本大臣ハ其ノ社以外ノ者ニ對シ指定ヲ爲スコトアルヘシ其ノ社ハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第一號 覺 書

大正七年五月七日付命令事項其ノ他ニ關シ左ノ事項ヲ取極ム一命令第五條ノ運送賃及陸揚費中ニ左ノ諸費ヲ含ムモノトス

(一)臨時外米管理部ノ認メタル傭船契約書面ニ因ル本船ノ滯

船料ニシテ受命者ノ責ニ歸スヘカラサルモノ

(二)受命者ノ責ニ歸スヘカラサル解船ノ滯泊料

(三)已ムヲ得サル事由ニ因リ臨時外米管理部ノ承認ヲ受ケ代

船仕立ヲ爲シタル爲メ生シタル運賃ノ差額

二命令第五條ノ其ノ他ノ諸掛ハ左ノ事項トス

(一)荷 痛袋切レ蟲喰

(二)變 質

(三)缺 斤

(四)天災地變戰爭其ノ他受命者ノ責ニ歸スヘカラサル原因ニ

因リ積込後販賣結了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル損害ニシテ

保險其ノ他ニ依リテ填補セラレサルモノ

(五)第十二條ノ命令ニ依リテ生シタル損害ニシテ受命者ノ責

ニ歸スヘカラサル事由ニ因ルモノ

三命令第五條ノ金利及爲替關係ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

四補給金ノ支拂ニ付テハ受命者ニ於テ隨時之ヲ請求スルコト

ヲ得

五命令第五條ノ手数料ハ百斤ニ付金參拾錢トス

六補給金ノ計算ニ於テ受命者ニ利益ヲ生シタルトキハ其ノ利

益ハ受命者之ヲ取得ス此ノ場合ニハ手数料ヲ支拂ハス

但シ大正七年五月一日ヨリ起算シ其ノ六箇月間毎ニ於ケル

利益カ其ノ期間ニ賣渡シタル總數量ニ對スル手數料額ヨリ少キトキハ其ノ差額ヲ補給ス

七命令第六條ノ場合ニ於テ遵據スヘキ市價ナキトキハ臨時外米管理部ト受命者トノ協定價格ニ據ル

八受命者ハ命令第一條ニ依リテ承認ヲ受ケタル事項第二條ニ依リテ受ケタル命令其ノ他重要ナル事項ニ付政府ノ發表スル迄秘密ヲ守ルベシ

大正七年五月十三日

臨時外米管理部長

神戸市東川崎町一丁目一番地

合名會社鈴木商店

代表社員 鈴木よね

東京市芝區芝公園十三號地

右代理人 長崎英造

(四) 外米ノ配給

指定外米ノ配給ニハ特ニ奉公ノ精神ヲ體シ郡町村農會、商業會議所、慈善團體、組合等ノ少量注文ニ應ジ敢テ煩ヲ厭ハズ實需口ニ配給スル事ニ努メ誠心誠意社會ノ爲メ盡瘁セン事ヲ期シタリ乃チ管理令施行セラレ弊店ノ指定商ニ任命セラル、ヤ六月五日附テ以テ次ノ如キ注意書ヲ各支店係員ニ配附シタルヲ以テモ當店ノ誠意ノアル所明カナルベシ

大正七年六月五日

金子直吉

拜啓當店ガ今回指定外米輸入業者タル特權ヲ得タルハ御同慶ニ堪ヘザル所ニ有之此機ニ於テ當店ハ一意奉公ノ誠ヲ致

シ以テ政府ノ米價調節下層民救濟ヲ旨トスル政策ニ順應シ
 一面社會公衆ノ福利ニ貢獻シタキ念慮ニ有之候ニ付テハ本
 支店各所ニ於テ事ニ外米ノ事務ニ從ハル、各位ハ深ク此ノ
 趣旨ヲ體シ遺算ナキヲ期セラレ度御承知ノ如ク市井小賈ノ
 輩ガ薄利ノ事業ヲ營ムニ當リテハ往々公正ナラザル商策ヲ
 試ムルモノナキヲ保スベカラザルモノニ候ヘバ當店ノ此事
 業ノ如キモ圖ラザル方面ヨリ疑心ヲ狹ミテ嫉視セラル、事
 アルヤモ測リ難キコトハ須ク覺悟セザルベカラザル所ニ有
 之候即チ當務各位ハ其事務ニ關シテ特ニ慎密ナル注意ヲ拂
 ハレ萬事政府ノ命令ヲ遵奉シ現品ニ帳簿ニ將タ商談ニ終始
 一點ノ陰翳ヲ留メザル様致度此ノ如キハ獨リ此ノ時局ニ處
 シテ當店奉公ノ務ヲ完ウスル所以ナルノミナラズ亦實ニ將
 來幾多國家的事業ヲ經始スル基礎ヲ築ク所以ニ外ナラズ何

卒各位ノ一致協力ニ依リ此ノ事業有終ノ美ヲ濟シ度不堪切
 望候

右特ニ小生ヨリ呈婆言度如此御座候

敬具

尙諸帳簿記錄往復文書等ハ何時検査ヲ受クルモ一點ノ誤
 リナキ様常ニ御整理置相成度特ニ切望致候

七。月。以。來。追。々。内。地。米。品。ガ。ス。レ。ニ。シ。テ。外。米。ヲ。要。ス。ル。事。最。モ。緊。要。
 ナ。ル。時。ニ。當。リ。當。店。ノ。着。荷。他。ノ。指。定。商。ヨ。リ。モ。豊。富。ナ。リ。シ。ハ。社。會。
 ノ。タ。メ。幸。ナ。リ。シ。ナ。ラ。ン。ガ。當。店。ニ。ト。リ。テ。ハ。是。ガ。禍。ノ。種。ト。ナ。ラ。ン。
 ト。ハ。夢。想。ダ。モ。セ。ザ。リ。シ。所。ナ。リ。

今八月五日神戸外米在荷ヲ示セバ左ノ如シ

三 井 七千袋

湯 淺 二萬袋

鈴 木 十三萬八千袋

其 他

五千袋

茲ニ於テカ各地ヨリ外米注文ノタメ雲集スル人士ハ當店へ當
 店へト詰メ寄セ八月五日ヨリ十日ニ至ル間ハ一日ノ外米買取
 希望者ハ二百名ヨリ三百名ニ上リ係員一同應接ニ違ナク晝夜
 追通シニ寢食ヲ忘レテ外米配給ノ事務ニ軼掌セリ
 然ルニ右表ノ如ク他指定商ノ在米甚ダ尠ナク當店ノミヘ天下
 ノ全顧客ガ集リタル事トテ如何ニ八面六臂ノ活動ヲナストモ
 當店一人ヲ以テ天下ノ全人士ヲ満足セシムベキハ到底不可能
 ナリ茲ニ於テカ最モ外米輸入配給ニ盡シツ、アル當店ガ却テ
 民衆ノ怨府トナルガ如キ奇妙ナル現象ヲ呈シタルハ遺憾ニ堪
 へズ
 右ノ如ク誠意誠心國家的觀念ヲ以テセル努力ニ報ヒラル、ニ

殘。忍。ナル。燒。打。ヲ。以。テ。セ。ラ。ル。然。カ。モ。吾。人。ノ。誠。意。ハ。是。ニ。依。テ。根。柢。
 ヲ。動。カ。サ。ル。、。如。キ。モ。ノ。ニ。非。ズ。十。二。日。夜。八。時。半。暴。徒。ノ。來。集。ニ。遭。
 ヒ。テ。不。得。止。燈。ヲ。消。シ。テ。外。米。配。給。ノ。事。務。ヲ。中。止。シ。タ。レ。ド。モ。燒。打。
 タ。レ。シ。翌。日。午。前。八。時。ヨ。リ。燒。跡。附。近。ノ。家。屋。ニ。於。テ。諸。種。ノ。不。便。ト。
 云。フ。ベ。カ。ラ。ザ。ル。苦。痛。ヲ。忍。ビ。テ。燒。跡。ニ。立。チ。上。ル。餘。燼。ヲ。眺。メ。ツ、
 悲。憤。ノ。暗。涙。ヲ。吞。ン。デ。配。給。ノ。事。ニ。從。ヒ。タ。リ。是。ガ。タ。メ。一。般。需。要。者。
 ニ。迷。惑。ヲ。及。ボ。サ。ル。事。ヲ。得。タル。ハ。僅。カ。ニ。慰。ム。ル。所。ナ。リ。
 尙。特。ニ。事。情。急。迫。セ。ル。富。山。縣。和。歌。山。縣。高。知。縣。等。へ。ノ。出。貨。ニ。ハ。多。
 大。ノ。犠。牲。ヲ。忍。ン。デ。迅。速。ニ。事。ヲ。處。理。シ。タル。外。左。記。ノ。如。ク。各。市。町。
 村。へ。ハ。特。ニ。便。宜。ヲ。與。ヘ。タ。リ。
 即。チ。神。戶。市。へ。ハ。八。月。八。日。ヨ。リ。六。千。袋。ノ。蘭。貢。米。ヲ。供。給。シ。倉。出。運。
 搬。賃。販。賣。費。用。等。ヲ。加。算。シ。テ。石。貳。拾。圓。ニ。及。ブ。ベ。キ。ヲ。拾。九。圓。ニ。販。
 賣。ス。ベ。キ。ヲ。神。戶。市。ニ。懇。憑。シ。其。缺。損。ハ。當。店。之。ヲ。負。擔。シ。八。月。八。日。

尼崎、西宮、鳴尾、大庄、今津村へ拾九圓五拾錢ニテ廉賣セラレン事ヲ建議シテ其差額ヲ負擔シ八月十四日ヨリ六十日間ノ廉賣米ヲ供給シ且又當店清水製油工場徳山製鍊所、播磨造船所、鳥羽造船所等ニ於テ工場事務員ヲ使役シテ地方民ノタメニ外米販賣ノ事ニ當ラシメ門司、下關、高知(此ノ三地ハ該地方ノ請求ヲ俟タズ當店ヨリ進ンデ配給セリ)徳島、岡山、大阪、堺ノ各市役所等へ特ニ迅速敏活ナル配給ヲナシ焦急ノ際供給ヲ潤澤ナラシメシハ誠ニ欣快トスル所ナリ

實。際。當。店。ハ。終。始。一。貫。當。局。ノ。意。ノ。ア。ル。處。ヲ。體。シ。社。會。ノ。タ。メ。一。片。ノ。私。心。ナ。ク。米。價。調。節。供。給。補。充。ノ。タ。メ。盡。瘁。シ。タ。ル。ヲ。以。テ。一。部。暴。民。ノ。誤。解。ヲ。招。キ。タ。ル。ハ。當。店。ノ。不。徳。ノ。致。ス。處。ト。ハ。云。へ。衷。心。願。ミ。テ。一。點。疚。シ。キ。所。ナ。キ。ナ。リ。

回顧スレバ八月十一日ノ事ナリシガ當店重役ハ折カラ下神中

ナリシ外米管理部河合業務課長及ビ鈴木事務官ヲ訪ヒ追テ入津スベキ外米ハ數ニ於テ供給補充ヲナスニ或ハ充分ナルベキモ最モ米價狂奔セル當時ニ今少シク外米ノ入着ヲ大ナラシムレバ一服ノ頓服藥ヲ投ズルノ效ハアルベキヲ以テ最モ焦眉ノ急ニ迫レル北陸地方ノタメニ伏木へ、四國中國ノタメニ宇品へ、岐阜、愛知、静岡等ノタメニ清水港及ビ四日市等へ香港在荷ノ西貢米ヲ買付ケ便船ヲ以テ輸入センカ右地方ノ焦眉ノ急ヲ救フト同時ニ新潟、加賀地方竝ニ土佐新米走リヲ都會ニ吸收シ得ベキヲ以テ豫定數ヲ越ユルトモ香港廻リ西貢米買附ヲナサン事ヲ力説シタルニ早速承諾ヲ與ヘラレタルニツキ香港ニ於テ八月積トシテ二萬二千三百袋ヲ買附ケ順次入着シ豫定以外ニ此數量ヲ以テ最モ米不足ニ苦シメル高知縣、水害ノタメ困窮セル鳥取、島根縣及石川縣等へ配給シ得タリ

八月中頃ヨリ遽カニ香港ニ打電シ八月中ニ積出スベキモノ二萬二千三百袋ヲ買附ケ積出シタルハ尠ナカラザル苦心ト迅速ナル行動ヲ要セシ所ナルモ各縣へ配給ノ上ニ多少ノ便宜ヲ得タル事ハ政府當局者ノ果斷ノ賜ナリ爾來外米配給ノ事ハ各地方廳ニ取纏メ農商務省ヨリ配給ヲ各指定商ニ命令スル事トナリタリ

第三章 朝鮮米取扱始末

大正七年四月外米管理令ノ實施セラル、ヤ我鈴木商店モ亦指定商ニ選バレシカバ前章既ニ述ベタル如ク奉公ノ誠ヲ盡シテ事ニ當リシガ蘭貢米西貢米ノ輸入以外尙何等カノ方策ヲ講ズルノ極メテ必要ナルヲ信ジ眼ヲ臺鮮米ニ注ギ殊ニ朝鮮ヨリノ移入高ハ大正四年ニ於テ二百二萬六千石ニ及ビタル位ニシテ

朝鮮ノ輸出餘力充分ナル上ニ朝鮮へ滿洲粟ノ輸入及ビ外米ノ輸入ヲナサシカ鮮米ノ内地移入高頗ル多額ニ上ルベキヲ考ヘ五月初旬策ヲ建テ外米管理部ニ進言スル所アリシニ超エテ六月政府ヨリ約二十萬石ヲ極メテ秘密ニ買付クベキ旨ノ命令アリタリ即其大要如左

一、鈴木商店ハ約二十萬石以内ノ朝鮮米ノ買入ヲ爲スコト
 二、鈴木商店ガ朝鮮米ノ買入及賣渡ニ依リテ萬一損失ヲ受ケタルトキハ政府之ヲ補給シ利益ヲ生ジタルトキハ政府之ヲ取得ス

三、朝鮮米ノ賣出價格ハ政府之ヲ指定ス

四、鈴木商店ノ取扱手数料ハ外國米ノ半額見當トシ追テ協議ノコト

五、本件ニ付テハ政府ノ發表スル迄秘密ヲ守ル事

茲ニ於テカ到底鈴木商店ノ名義ヲ以テハ低價ニ買附ヲナス事
 ノ困難ナルヲ感ジ當局者ノ同意ヲ得テ大阪市小西辰次郎氏ニ
 委スルニ鮮米買付ノ事ヲ以テセリ小西氏ハ六月中朝鮮ニ在リ
 テ約三十三萬仄ヲ玄米平均代價貳拾四圓七拾錢見當ニテ買集
 メタリ是ニ大阪へ運賃石貳圓貳拾錢東京へ參圓貳拾五錢外ニ
 雜費ヲ加ヘバ大阪東京平均約貳拾八圓七拾錢ニ當ル抑モ小西
 ナシテ鮮米買付ノ任ニ當ラシメタル所以ハ產地ニ於ケル價格
 暴騰ヲ惹起セザル様充分ノ注意ヲ爲スノ要アリシニ由ル而モ
 同人ハ米商人ナルガ故ニ買付ニ當ツテ或ハ多少ノ商略ヲ用ヒ
 タルヤモ知ラズト雖モ能ク政府ノ命令ヲ遵奉シ且ツ當店ノ主
 旨ヲ體シ大過ナク其ノ任務ヲ全ウシタルヲ疑ハズ
 右三十三萬仄ノ内半數ヅ、東京、大阪ノ二市ニ配分シ東京ニテ
 ハ精米業者ニ賃搗キセシメ大阪ニテハ產地白米ヲ市公設市場

ニテ玄米ヲ精米業者へ時價ヨリ稍下値ニテ東京、大阪各地一日
 約二千石即チ兩市ノ消費量ノ約三分ノ一ヲ供給スルノ策ヲ建
 テ八月五日ヨリ左ノ方法ニヨリ販賣ヲ開始セリ

今東京竝ニ大阪市ニ讓渡ス迄ノ大阪ニ於ケル政府ノ命令セル
 販賣方法及値段ヲ記セバ次ノ如シ

大阪ニ於ケル販賣法

一、販賣開始 八月五日

一、販賣範圍 大阪市竝ニソノ直接附近地方ニテ汽車又ハ船積

ニナサル地域

一、賣渡先 玄米ハ大阪市中信用アル精米業者へ一日百石以

内精米機能力ニ應ズルコト

產地白米ハ大阪市公設市場ニテ一般消費者へ賣
 ルコト

一、賣 値 玄米釜山三等ヲ標準トシテ倉渡シ參拾參圓產地
白米參拾七圓ヨリ賣リ初メ時價ニ從ヒ上下スル
コト

一、條 件 現金引替契約後三日以内引取ノコト
其後大阪市ノ希望ニヨリ八月十一日殘高約五萬石ヲ大阪市へ
政府ノ命令セル値段段玄米參拾壹圓五拾錢ヲ以テ賣渡シタリ

東京ニ於ケル販賣法

一、販賣開始 大阪同様八月五日
一、品 質 全部白米ヲ以テス
一、場 所 左ノ三所ニ於テ委託販賣セリ

東京精米株式會社
共盛精米株式會社
共同精米株式會社

其他ノ條件大阪ト同ジ但シ精米費及委託條件ノ契約ハ農商務
省立合ノ上之ヲ決定セリ

當時ハ丁度田舎ニ於テ内地米品ガスレニテ都會へ廻米非常ニ
減少セル際トテ東京大阪二市場ハ假令ソノ數量六萬石ヅ、ハ
少量ナリト雖モ供給補充ニ大功アリシハ識者ノ認ムル所若シ。
夫レ此ノ朝鮮米十二萬石ガ米價奔騰天井知ラズノ概アリシハ。
月初旬ニ東京大阪ニ存在セザリシナランニハ東京大阪ノ兩市。
ハ殆ンド饑饉ニ近キ慘狀ヲ呈シタルナラン。

八月初旬東京ノ在米僅カニ八萬俵ニシテ東京市民ヲ一週間支
フル能ハザル状態ニアリタル際右鮮米ノ大輸送ヲ敢行シテ焦
眉ノ急ヲ救ヒタルハ當局者ノ熟知セラル、所ナリ唯惜ムラク
ハ諸種ノ事情ニ阻止サレ鮮米買附高豫定數量ニ及バザリシト
雖モ米價調節ニ特功アリシ事ハ鮮米買附ノ事情ヲ市場ニテ知

悉セシ時左ノ如キ暴落ヲ呈シタルヲ以テモ知ルベキナリ
大阪定期市場八月切

六月二十四日 貳拾六圓七拾七錢

七月三日 貳拾四圓八拾錢

七月六日 貳拾壹圓貳拾錢

右ノ如ク假令一時タリトモ米價調節ニ効アリタル外田舎ヨリ
都會へ出穀ノ端堺ニ於テ東京大阪兩市ヲ一箇月間支フルダケ
ノ供給ヲナシ得タル事ハ吾人ノ心中愉快トスル所ナリ
然ルニ何ゾ計ラン又モヤ某紙ハ鈴木ハ朝鮮米廉賣ノ美名ノ下
ニ隠レテ暴利ヲ貪リツ、アリトノ蜚語ヲ流布セリ是ハ朝鮮ニ
テ旗賣ヲナシテ損失ヲ蒙リタル某等ノ中傷的流言ソノ因ヲナ
シタルベク想像セララル
最モ當時ノ鮮米賣値白米參拾七圓ハ買値段ヨリ見テ利益ヲ生

ズベキ値段ナルハ勿論ナレドモ是ヨリ生ズル利益ハ農商務省
ノ取得スル所ナルヲ以テ之ヲ公表スルヤ又シテモ某紙ハ石壹
圓ノ手數料ヲ貪リ居レリト稱シテ實際百斤拾五錢ノ薄口錢ナ
ルニモ拘ラズ天下ヲ欺キ我商店ヲ譏誣セシタメ世間ノ誤解ヲ
招キタル事遺憾ニ堪ヘズ

右ノ如キ利益ヲ生ズル値段ニテ賣却シタルハ當店トシテ好マ
ザル所ナルモ時價ヨリ大ナル値轄ニテ販賣スル事ハ他ノ鮮米
移入業者ノ移入ノ企ヲ阻止シ米價調節ノ主旨ニ反スルヲ以テ
不得止農商務省ノ命ニヨリテ右ノ値段ニテ發賣セル所以ハ有
識者ノ是認スル所ナルベシ
今當店ガ決シテ暴利ヲ貪ルモノニ非ザルコトハ左ノ八月十三
日片山外米管理部長ガ公表セル所ヲ摘記セバ明瞭ナラン
鮮米ノ輸入 五月末頃ニ於ケル朝鮮米ノ移出餘力ハ約四十

萬石ノ見當ニシテ而モ船腹ノ缺乏汽車運輸ノ困難等ノ爲容易ニ内地ニ輸入スル事能ハザル状態ナリシヲ以テ政府ニ於テモ朝鮮米ノ移入ヲ計ルヲ得策トシ之ニ着手セリ
鈴木ト契約 鈴木商店ニ命ジテ朝鮮米ヲ買入レシメタル條件中重ナル事項左ノ如シ

一、手數料ハ一石參拾七錢五厘(一擔拾五錢)トス

二、鈴木商店ガ朝鮮米ノ買入及賣渡ニ於テ萬一損失アル時ハ政府之ヲ補給シ利益ヲ生ジタル時ハ政府之ヲ收得ス(政府ノ收得シタル利益ハ外國米ニ支拂フベキ補給金ニ充當スル都合ナリ)

三、朝鮮米ノ賣出價格ハ政府之ヲ指定ス(一石參拾七圓トナシタルハ一般商人ノ朝鮮米移入ヲ促進シ且朝鮮米ノ市場ニ影響ヲ及ボス事ナカラシメンガ爲ナリ)

四、政府ノ發表スル迄秘密ヲ守ルベシ

大阪ニ於ケル朝鮮米ハ全部鈴木商店ヨリ大阪市ヘ玄米一石參拾壹圓五拾錢ヲ以テ賣渡サシメタリ(此値段ハ市ノ白米小賣値段ノ奔騰ニ件ヒ上下スル條件ナリ從ツテ目下小賣値段ヲ參拾五錢トシタルヨリ大阪市ヘノ賣渡シ値段ハ玄米一石貳拾九圓貳拾錢トナリタル譯ナリ)

結 論

以上章ヲ重ネ鈴木商店ノ米價問題ニ對シ爲セル所ノ顛末ヲ闡明シタルガ虚心坦懷之ヲ讀過セラレタル公平ナル諸君ハ當店ガ如何ニ誠意ヲ竭シテ時勢ノ急ニ應ジタルカヲ了解セラレタルベク同時ニ當店ガ當然社會ヨリ感謝セラルベキ筈ナルニ却テ慘酷ナル迫害ヲ以テ報イラレタルノ非道無法ヲ認メラレタ

ルナルベシ然レドモ當店ハ決シテ他ヲ怨マズ自ラ其ノ不徳ヲ
 責メテ益々國家社會ノ爲ニ貢獻スル所アラムコトヲ期ス由來
 商業界ニハ常ニ賣方買方ノ二方面アリテ其ノ取引ノ結果ニ依
 リ一方ヨリ他方ヲ妬ミ時トシテ種々ノ惡聲ヲ放チ中傷スルモ
 ノ尠ナカラズ又時トシテ之ヲ利用シ故意ニ當店ヲ關係ナキ政
 爭ノ渦中ニ捲キ込ミ其ノ傍杖ヲ喰ハシテ快トセル者モ尠ナカ
 ラザリキ此等厭フベキ陰謀ノ爲ニ全ク事情ニ通ゼザル世人ヲ
 シテ大ナル誤解ニ陥ラシメタルハ最モ遺憾トセザルベカラズ
 今ヤ幸ヒニ從來ノ誤解者ヲ釋然タラシメ本來鈴木商店ノ主義
 トスル所ヲ正解セシムルニ至ラバ所謂雨降ツテ地固マルノ譬
 ノ如ク當店今回ノ不幸ハ轉ジテ他日ノ幸福トナルベク吾人ハ
 之ヲ庶幾シテ以テ自ラ大イニ慰メ且勵ミツ、アルナリ公平ナ
 ル讀者冀クハ吾人ノ微衷ヲ諒セラレンコトヲ

大正七年十二月

合名
 會社
 鈴木商店

大正八年一月廿七日印刷
大正八年二月五日發行

(非賣品)

著者兼
發行者

神戸市兵庫東川崎町一丁目一番地
合名會社鈴木商店米部

印刷者
岡部
五峯

印刷所
岡部商店印刷事務所

電話本局四四二五番

70/10